

# 国際十王交通

# 会社紹介

## 1. 朝日自動車グループの概要

朝日自動車グループには、朝日自動車株式会社をはじめとする、10の事業者が所属しています（図1）。その中に、国際十王交通株式会社も含まれています。

朝日自動車グループの事業者10社を合わせた2016年2月1日現在の保有車両数は、乗合787台（高速車48台含む）、貸切68台、特定19台で、計874台となっています（表1）。メーカー別で見ると、日野486台、いすゞ311台、三菱ふそう43台、トヨタ24台、日産ディーゼル・UD8台、日産2台の順で構成されています（表2）。

## 2. 国際十王交通株式会社の概要

国際十王交通株式会社の営業所は、埼玉県熊谷市と群馬県伊勢崎市にあります。

国際十王交通の保有車両数は、乗合69台（高速車4台含む）、貸切15台、特定1台で計85台となっています（表1）。メーカー別で見ると、日野が53台、いすゞが32台となっており、その他のメーカーの車両は導入されていません（表2）。

乗合バスは熊谷市周辺と伊勢崎～本庄間などを主体とし、熊谷市、伊勢崎市などの循環バスを受託するほか、籠原・熊谷・森林公園の各駅と羽田空港を結ぶ高速バスを運行しています。

貸切バス事業に関しては、経営悪化の変化などから縮小し、契約輸送主体に変化しているのが現状です。バス事業の他にもタクシー事業（伊勢崎地区のみ）や、駐車場・不動産事業も行っています。

## 東武グループ

### 朝日自動車グループ

- ・ **国際十王交通**
- ・ 朝日自動車
- ・ 川越観光自動車
- ・ 茨木急行自動車
- ・ 関越交通
- ・ 朝日カーメンテナンス
- ・ 東北急行バス
- ・ 日光交通
- ・ 阪東自動車
- ・ 桐生朝日自動車

### 東武バスグループ

- ・ 東武バスセントラル
- ・ 東武バスウエスト
- ・ 東武バスイースト
- ・ 東武バス日光

### 東野交通グループ

- ・ 東野交通
- ・ 東野整備
- ・ 那須交通
- ・ やしお観光バス

図1 朝日グループの組織図（2016年11月現在）

図2 伊勢崎営業所管内運行系統略図

図3 熊谷営業所管内運行系統略図

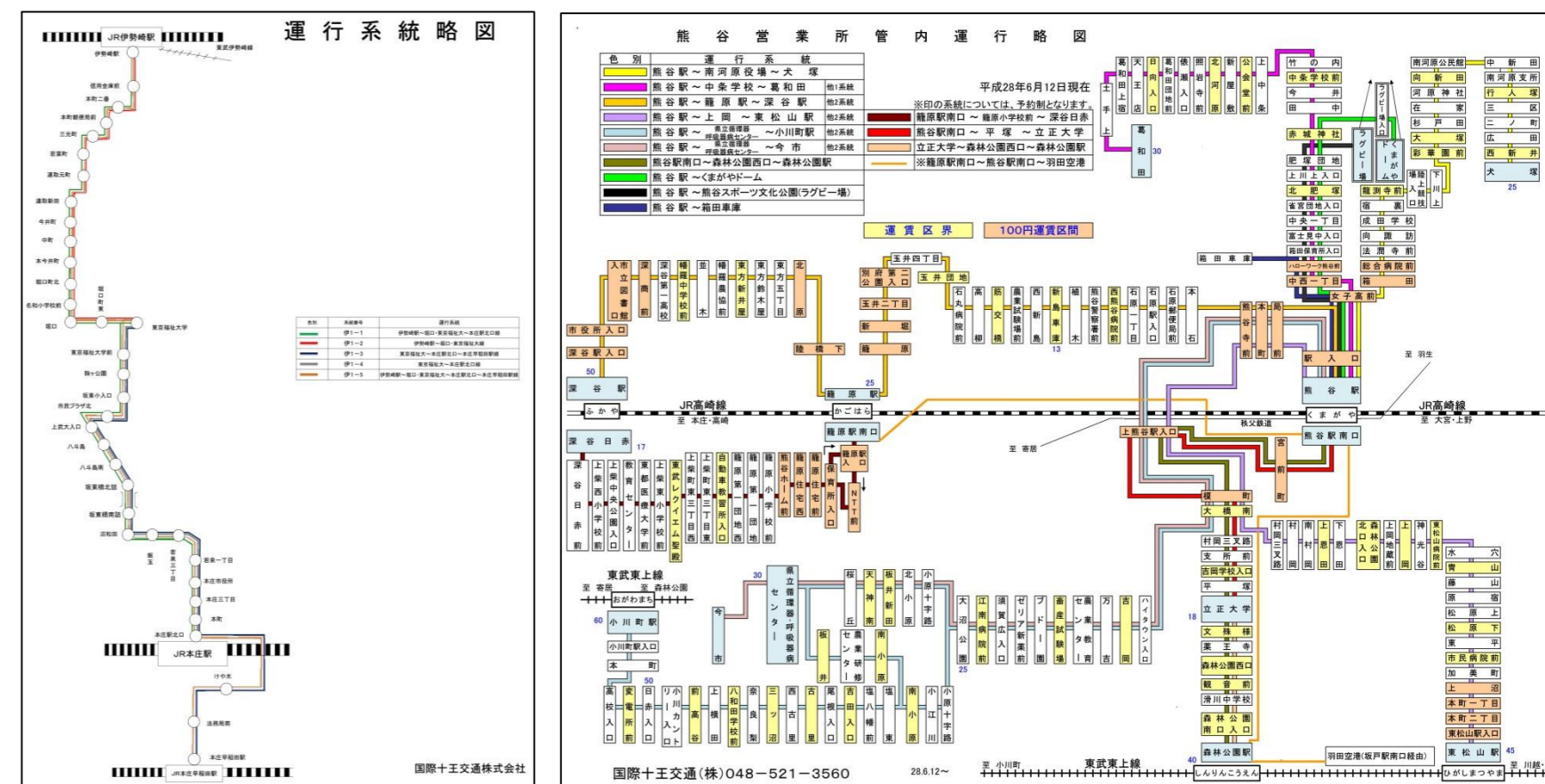


表1 バス車両の用途別構成（2016年2月1日現在，BJハンドブックを基に作成）

	乗合バス車両	貸切バス車両	特定輸送用車両	合計
朝日自動車グループ	787台	68台	19台	874台
国際十王交通	69台	15台	1台	85台

表2 バス車両のメーカー別構成（2016年2月1日現在，BJハンドブックを基に作成）

	日野	いすゞ	三菱ふそう	トヨタ	UD	日産	合計
朝日自動車グループ	486台	311台	43台	24台	8台	2台	874台
国際十王交通	53台	32台	—	—	—	—	85台



### 3. 会社沿革と熊谷周辺におけるバス交通の変遷

大正末期から昭和初期にかけては、関東平野において急速にバス事業が拡大していった時期で、バスがひとつの地位を築きはじめていました。

現在の国際十王交通のバス運行区間の中で、記録に残る最も古い区間は、1920（大正9）年に運行していた「日本自動車運輸」の熊谷～松山町（現在の東松山市）間です。大正後期には埼玉自動車（熊谷～太田、深谷～寄居、熊谷～小川町ほか）、昭和初期には寄居自動車（寄居～熊谷）、上武自動車（本庄～児玉～鬼石など）などの比較的規模の大きい事業者も出現しました。1950年代後半から1960年代にかけては、破竹の勢いで路線が延びた時期でした。

1957（昭和32）年12月26日に、国際興業が運営していた進駐軍関係のハイヤー事業のうち、熊谷から小泉・太田にかけての地域を譲り受けて国際ハイヤー株式会社が設立されました。一方、十王自動車は1945（昭和20）年に設立され、当初はタクシーを営業、後に貸切バス事業に参入しました。

1958（昭和33）年には、国際ハイヤーと十王自動車は、東武グループの傘下となりました。国際ハイヤーは、タクシー事業再編の一環で群馬観光タクシー株式会社を存続会社として合併し、2000年10月には、群馬県エリアの事業を関越交通に譲渡しました。

2001年4月に（新）国際ハイヤー株式会社に商号変更するとともに、東武バスの肩代わりを受けて路線バス事業の営業を開始しました。2003年1月には、十王自動車との観光バス集中配車制を導入しました。

十王自動車は、1994年4月に本庄～伊勢崎線と伊勢崎オート送迎を移管され、乗合バス事業を開始し、2001年12月には会員制高速バスの運行を開始しました。

そして、2004年1月に、国際ハイヤーと十王自動車が合併し「国際十王交通株式会社」が設立されました。国際ハイヤーの設立から数え、国際十王交通株式会社は2017年に設立60周年を迎えます。



### 4. 近年の事業展開

「朝日自動車グループ」は東京から30～50km圏の近郊地域をエリアの一部に持っているため、新たな展開を見せています。

国際十王交通では、2001年に伊勢崎・熊谷・森林公園～成田空港間（東京空港交通と千葉交通で共同運行）を新設し、2004年には熊谷・森林公園・川越～京都・大阪間夜行バス（近鉄バスと共同運行）、籠原・熊谷・森林公園～羽田空港間（東京空港交通と共同運行）を開業しました。成田空港線は2007年に深谷発着としたものの2014年までに休止、熊谷～京都・大阪間夜行バスも2010年には廃止（近鉄バスは2015年まで運行）されています。

埼玉県内では東武鉄道からの肩代わり路線を主体に共通バスカードに対応していましたが、2000年代後半には国際十王交通もICカードに対応するようになりました。

ICカード独自のサービスとして、バス利用特典サービスがあります。毎月（1日～月末日の1か月間）利用した額に応じて、バスの運賃支払いに利用できる「特典バスチケット」を提供するものです。

「バス特」適用バスを利用すると、「バスポイント」がICカードに記録（累積）され、1,000バスポイントごとに、自動的に「特典バスチケット」が同じICカード内に記録（累積）されます。「特典バスチケット」は、次回「バス特」適用路線を利用する際に、自動的にバス運賃の支払いに使用されます。

「バスポイント」および「特典バスチケット」は、「バス特」適用路線の利用に限り有効です。

また、北関東全域では自治体の地域バスへの取り組みも早く、朝日自動車グループでも数多くのコミュニティバスや地域巡回バスを受託しています。国際十王交通でも2008年に伊勢崎市「あおぞら」を、2011年に熊谷市「ゆうゆうバス」を受託しています。

#### ○出典

- ・国際十王交通ホームページ <http://www.juo.co.jp/kousoku.html>(最終閲覧日:2016年10月27日)
- ・加藤佳一編（2016）：『BJハンドブックシリーズ S91 朝日バス』69p.

#### ○写真撮影

- ・立正大学地理学科交通地理研究室 進藤撮影(撮影日:2016年10月27日)